

大原社会問題研究所五十年史

V 戦後

日本社会運動史料の覆刻刊行

創立五十周年記念事業の一つとして、研究所々蔵の労農運動、政党運動ほか各種社会運動の機関紙誌、原資料類を整理編成して覆刻し、索引・解説を付して発行する計画の決定したことは前述した。一九六八年にはいと、いよいよその具体的準備を始めることになり、二月二八日の常務理事会、研究員会でこの事業について検討した。また発行所は、戦前版『日本労働年鑑』を覆刻発行しつつある法政大学出版局を第一候補として交渉をすすめることを決定した。その後、数回にわたり研究員会で検討した結果、大原研究所編「覆刻シリーズ・日本社会運動史料」として刊行すること、新人会機関誌『デモクラシイ』『先駆』『同胞』『ナロオド』を第一回発行とすること、覆刻版の編集刊行については二村研究員を主たる担当者とし各所員がこれに協力すること、等がきまった。

覆刻計画の検討をすすめているうち、友愛会の機関誌『労働及産業』をそのうちに含めることが不可欠であるとの結論に達した。ところが総同盟五十年史刊行委員会においても右の機関誌の覆刻計画をもっていることが判明した。刊行委員会と研究所両者間に数次にわたり下交渉をおこなったのち、九月三〇日、大島所長、二村研究員が五十年史刊行委員会に天池清次事務局長と渡辺悦次局員を訪問、協議の結果、(1)両機関共同編集のもとに『労働及産業』全巻の覆刻版を発行すること、(2)編集発行の計画とその実施は両機関の代表より成る編集委員会が当ること、を決めた。こうして、友愛会機関誌も「覆刻シリーズ」の一部として発行されることになり、その後出来た編集委員会(天池、渡辺、大島、二村)はただちに第一回発行の準備にとりかかった。

創立五十周年記念事業として着想された「覆刻シリーズ」の刊行は、計画を練るうちに次第にその構想の規模をひろげ、第一期刊行計画だけでもぼう大な量にのぼるものとなった*。たとえ仕事が順調にすすんだと仮定しても、計画を全部実現するには二〇年ないし三〇年におよぶ期間を要する大事業となった。しかし研究所の所蔵しているこれら社会運動史料の公開はある意味で大原研究所の社会的義務であり、万難を排して実行にとりかかることにした。六八年一二月一一日、研究所と法政大学出版局との間に出版契約が取りかわされた(新人会機関誌『デモクラシイ・先駆・同胞・ナロオド』は六九年三月に、『労働及産業』(1)は同年一〇月に、建設者同盟の機関誌『青年運動』は七〇年三月にそれぞれ発行された)。

*覆刻シリーズ「日本社会運動史料」は機関紙誌編と原資料編の二部から成っている。機関紙誌編は第一期だけで約三十余种、『労働及産業』『労働』『労働新聞』『工場と鉱山』『土地と自由』『無産者新聞』など戦前の労働組合、農民組合、無産政党の主要全国組織の機関紙をほぼ網羅している。原資料編は研究所が半世紀の間に集めた労働組合、農民組合、無産政党の原資料を細大もらさず整理編成して刊行するもので、さし当っては整理が比較的進んでいる無産政党資料から刊行の予定である。機関紙誌編、原資料編の双方をあわせれば第一期だけで一五〇巻をこえるものになることが予想される。

刊行のことば

一九六九年は大原社会問題研究所創立五十周年に当たる。当研究所が大阪の地に創設された一九一九年は、わが国社会運動史上、画期的な年であった。前年、全国各地を津波のように襲った米騒動の余波おさまらぬこの年、労働争議はますます組織的におこなわれるようになり、農村では小作争議の波がこれに応じて起こった。民主主義と無政府主義・社会主義の思想は急激に国民の間に浸透し、大正デモクラシーの運動は華ばなく展開された。この時いらい半世紀、社会運動は各種の分野で、波瀾と曲折をくりかえしつつ今日にいた

った。わが大原社会問題研究所はこの間、労働運動・農民運動・無産政党運動・水平運動・婦人運動その他さまざまな分野で作成された機関紙誌・報告書・ビラ・信書等の資料類の蒐集につとめて来た。第二次大戦の戦火で多くの文献を失なったけれども、これらの機関紙誌や原資料の類は焼失をまぬかれて保存されたのは不幸中の幸いであった。

これらの社会運動資料は、いずれも多くの組織や有名無名の運動家たちの血と汗によってつづられた苦闘史の産物であり、社会の貴重な共同財産である。それは、一研究所の書庫において私蔵されるよりは、社会運動関係者・研究者あるいは広く一般の読者にむかって公開されるべき性質のものである。わが研究所は、創立五十周年記念事業の一つとして、逐次これらの資料類を整理編成し、欠号ある場合は所外所蔵者の協力を得て完璧を期し、これを覆刻、解説を付して公刊することを決定した。研究所の所蔵資料はぼう大な量にのぼり、その覆刻は長期にわたる大事業となるであろうが、これはある意味でわが研究所の負う社会的義務ともいえる。われわれは万難を排してこの事業の実現をはかりたいと思う。

理解ある関係者・一般読者の変わらぬ御協力と御援助を期待してやまない。

一九六九年二月九日

法政大学大原社会問題研究所所長 大島清

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

研究活動・刊行物 [OISR.ORG](http://oisr.org)全文検索

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
